

編集後記

すでに報じられたように今年(1988)の9月5日～9日、東京新宿の京王プラザホテルでリハビリテーション・インターナショナル(R.I.)の第16回世界大会が開催された。これは4年ごとに開かれる全世界的な会議で、アジアでは初めての意義深い大会である。今号ではその8つの総会、30の分科会に発表された200に近い報告の中から代表的なものを選んで特集とし、併せて会議そのもの(大川氏)と、十数か所で開かれたプレ・ポスト・コンgress会議のいくつかを選んでの印象記(高木、小島、土肥、岡本、遠藤の各氏)を掲載した。

筆頭の大江健三郎氏は知らぬ人となない現代日本文学の旗手であるが、同時に脳に障害をもつ子どもの父親でもあり、1964年の「個人的な体験」をはじめとして、最近の「新しい人よ眼ざめよ」等に到るまでその事実が大江氏の人生の主題でもあり文学の主題でもあるという関係が続いてきている。今回この世界会議の冒頭の基調講演で、みずからその関係の奥深い秘密を

ときほぐして示して下さい。障害をもちそれを受容するというのが、文学の課題でもあり、戦後の日本自体の課題でもあるという、大きなひろがりをもったお話をぜひ深く味わっていただきたい。

次のヒューズ氏は国際義肢装具協会(ISPO)の会長でその立場から義肢を中心に最新の技術的進歩を紹介して下さい。ハンドヨ・チャンドラクスマ氏はインドネシアのCBR(地域に根ざしたりハビリテーション)運動の推進者。開発途上国の現実から出発する「現実的アプローチ」の苦労に触れていただきたい。エフライム・マガグラ氏はスワジランドという小国の国会議員であるが、RI副会長(アフリカ担当)として、アジアよりも更に大きい問題をかかえているアフリカ諸国のリハビリテーション事業を推進してきた。彼の努力が稔って次回(1992)の世界大会はケニアのナイロビで開催されることとなった。最後の花田春兆氏は、俳人、随筆家として有名な方。脳性麻痺者でもある立場から、コミュニケーション、すなわち相互理解の問

次号予告(第17巻第1号)

特集 リハ医学における基礎医学

骨折治療における電気刺激—その最近の進歩と話題……京府医大整形外科 平澤泰介・他
神経筋と電気刺激……慶大 椿原彰夫
慢性関節リウマチをめぐる免疫機構……聖マリアンナ医大 岡寛・他
骨関節のバイオメカニクス—ことに股関節バイオ

メカニクスの臨床的意義……島根医大整形外科 廣谷速人
臨床医学としてのリハビリテーション……産業医大 今村義典
研究と報告 成人脳性麻痺者にみられた知覚—運動障害について……金沢大 染矢富士子・他
いわゆる“いざり児”の運動発達……三重県立草の実学園 二井英二・他

調査 「身体障害者実態調査」をめぐる……宮城県拓杏園 石垣真・他
講座 評価法(1)

リハビリテーションにおける評価……横市大 大川嗣雄
CTによる脳の解剖学(1)……七沢病院 中森昭敏

一頁講座 体幹装具と Seating System

(1) 障害児のためのいすと座位補装具に対する
基本的な考え方……北九州市立総合療育センター 高松鶴吉

題を滋味豊かに語って下さった。

以上の5論文と印象記また2つの関連した「ひと」を併せ読んで今回の世界会議の全容をおしはかっていたいただければ幸いである。

今号で、2つの講座、「末梢神経」と「リハビリテーションのための統計学」が終了した。両シリーズの著者たちに深く感謝したい。一頁講座の「骨格構造義肢」についても同様である。

盛沢山の企画のため研究と報告は畑野氏他の「膝関節障害による大腿四頭筋萎縮の病態に関する実験的研究」しか載せることができなかった。このような実験的研究がふえることはリハビリテーション医学にとって意義深いことである。

最後になったが、巻頭言の池田氏の「リ

ハビリテーション・マニュアルについて」

は当然の懸念を表明しておられる。厚生省側は「マニュアル」の目的はあくまで一般医に対しての早期リハビリテーション開始の重要性の啓蒙と正しい技術的知識の普及にあると言明しており、筆者などもその限りにおいて一委員として協力している。重要な問題であるのでぜひ多くの方々の御意見をうかがいたいものである。

多くの問題を残しながら、多事であった1988年も暮れていく。新しい年には姉妹誌であった「理学療法と作業療法」誌が「細胞分裂」して「理学療法ジャーナル」と「作業療法ジャーナル」として新しく出発する。どうか皆様もよいお年をお迎え下さい。

(上田 敏)

総合リハビリテーション (第16巻 第12号)

1988年12月10日発行 (毎月1回10日発行)

1部定価 1,750円 (配送料60円)

(年ぎめ予約購読料 19,560円)
(送料弊社負担)

発行 株式会社 医学書院

代表者 金原 優

〒113-91 東京都文京区本郷5-24-3

電話 社内案内 (03) 817-5600

本誌編集室直通 (03) 817-5704

(担当: 山田・細田)

販売部直通 (03) 817-5659・5660

ファクシミリ (03) 815-7802

振替口座 東京 7-96693番

印刷所 三報社印刷(株): 電話 (03) 637-0005

広告申込所 (株)東広社: 電話 (03) 409-8803

編集顧問

天児 民和
大島 良雄
河邨 文一郎
五味 重春
津山 直一
土屋 弘吉

編集委員

明石 謙
上田 敏
緒方 甫
大井 淑雄
大川 嗣雄
千野 直一
横山 巖

編集同人

赤津 隆
今田 拓
今村 哲夫
岩倉 博光
江口 壽榮夫
小川 孟
荻島 秀男
奥川 幸子
加倉井 周一
小島 蓉子
斉藤 正也
笹沼 澄子
澤村 誠志
高橋 勇
高松 鶴吉
武智 秀夫
土屋 和夫
土肥 豊
永井 昌夫
中村 隆一
野島 元雄
野村 歆
長谷川 恒雄
初山 泰弘
福井 圀彦
松村 秩
三島 博信
矢谷 令子
米本 恭三
渡辺 英夫
(五十音順)

Published by IGAKU-SHOIN Ltd. 5-24-3 Hongo, Bunkyo-ku Tokyo © 1988, Printed in Japan.
本誌の内容を無断で複写・複製・転載すると、著作権・出版権の侵害となることがありますので御注意下さい。